

(41号) 大宜味村 農業委員会だより



耕作された元気な畑から村の未来が見えます。

編集・発行 大宜味村農業委員会 ☎(0980) 44-3477
〒905-1392 大宜味村字大兼久157番地

第15期 第18回総会議案結果報告 (平成28年2月25日開催)

議案番号	件名	件数	可・否
議案第46号	基盤強化促進法に基づく 利用権設定について	1件	可
議案第47号	非農地証明について	1件	可

今月の各種申請の締め切りは3月10日(木)です。

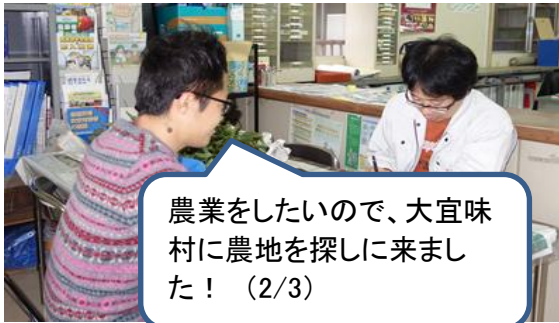
農業委員活動風景



農地の相談にきました。体験や参加型の営農も考慮してます。(1/29)



申請の調査(2/8・2/10)
田嘉里/謝名城
玉城 等・平良 哲



農業をしたいので、大宜味村に農地を探しにきました!(2/3)



農地を貸したいのですが。2/24

**職務代理に就任
山内 典貴**
平成28年1月度の大宜味村農業委員会定例総会において、職務代理に選任されました。任期は平成29年9月30日までとなります。

冬の風物詩

サトウキビの刈り取りが始まっています

刈り取られたキビが、見る見るネット
いっぱいになりました!!



産業用廃プラスチック類を 回収しました

平成27年7月~28年1月(3回)

このように畳んだ状態で回収します



不要になった農業用ビニール類の不法投棄等による環境悪化の防止と処理費用の負担を支援するため実施しました。14世帯の農家から2,906Kgの持込みがあり、経費は188,916円でした。協議会と農協の支援によって農家の費用負担は62,986円となり環境悪化の防止に加え費用の面でも負担軽減となりました。来年度も行う予定です。お問い合わせは産業振興課まで 0980-44-3232



農地所有者の 皆様へ

農地中間管理機構を活用しましょう！ ～「農地集積・集約化対策事業」～



農地中間管理機構を活用する 所有者【出し手】のメリット

- ① 賃料の徴収・支払いは、農地中間管理機構が責任を持って行います。
- ② 農地借入れ契約期間の満了時には、農地所有者に確実に返ってきます。
- ③ 借り入れた農地は、借り手が見つかるまで、最長で2年間適切に管理し、その間の出し手への賃料は、機構が支払います。
- ④ 出し手が農地中間管理機構へ、農地を10年以上貸し付けるなど一定の要件を満たせば、賃借料とは別に「機構集積協力金」の交付を受けられる場合があります。

担当：産業振興課 山城 元樹/前田 文彦
☎ 0980-44-3232

リタイアするので農地を貸したいな！と思ったら・・・

→ 機構に農地を貸して下さい。お借りした農地は機構が担い手に転貸します。

対象農地は・・・

→ 『農業振興地域』内の農地です。

借り受け出来ない農地は・・・

→ 農地としての利用が著しく困難な場合や貸付ける可能性が著しく低い場合です。

受け手は・・・

→ 指定することができません。

その他・・・

・賃貸料は、玄米等の現物で受けることができません。

・所有者が死亡している場合は、**相続人の同意書**が必要です。

農家さん紹介コーナー



青年農業者の会で頑張っている、饒波地区菱沼 俊さんをご紹介します。(東京都出身)

栽培：小麦 品種：江島神力



Q: 沖縄に来て何年くらいですか？
キッカケも教えてください。

A: 3年近くになります。北海道の酪農学園大学で勉強し、北海道の農場で6年間働いていました。次のステップとして養豚をしている農家さんを、農場の関係者を通じ探していたところ「きゆな牧場」さんを紹介して頂き、15年位前から年1,2度訪れていた事がキッカケでした。

Q: 小麦を栽培作物に選んだ理由はなんですか？

A: 働いていた農場が、小麦を栽培しパンを作っていたので、出来たら沖縄の在来種の小麦粉を使った、パンを作りたいなあって思ったからです。

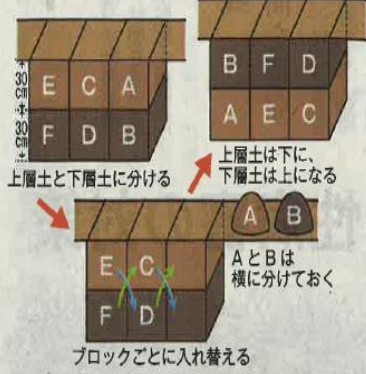
伊江島の江島神力(えじまじんりき)が在来品種だと知り栽培しています。

Q: 工房を建てていると聞きましたが、完成はいつ頃ですか？

A: 3月4月にはオープン予定です。席も3席ほど用意し、お店でも食べてもらえる間取を考えています。最初は、ガスオープンですが、将来的には薪のオープンで焼いたパンを提供したいと考えています。メニューはお菓子を含めて30種類以上です。(全粒粉)もっちりとした美味しいパンを早く食べたいです♪

★推薦者：米須 章 農業委員

天地返しの方法



全国農業新聞からのご紹介です！



農閑期に行う寒起こしと天地返し



菜園名

最初は柔らかかった土地は野菜を作り続けると次第に硬くなり、水はけが悪く、病害虫が出やすくなります。菜園に野菜が少ないこの時期には、春に備えて土作りをやりましょう。

▽寒起こし

厳寒期の1月～2月に菜園を荒く掘り起こし、土の塊を寒気にさらす作業です。土塊に含まれる水が夜間には寒さで凍結し、日中には溶けて乾燥します。これの繰り返して土塊が次第に崩れて、ふかふかの土になります。また、土中の害虫は寒さで死滅する効果も期待できます。この時、有機物をたっぷり入れておきましょう。

▽天地返し

長く栽培していると、上層土には養分が蓄積し、下層土は根が入りにくく硬くなつてきます。また、上層土

おとり、対抗植物などで対策

には土壌病原菌や有害センチュウが増えます。このような畑では連作障害が発生し、野菜の生育が悪くなります。

天地返しは、表面から30センチ程度の上層土とその下60センチくらいまでの土を入れ替える土壌改良法です。ふだん耕す土層は軟らかくても、その下に硬い部分があることがあります。これを耕盤といいます。長い間、トラクターのロータリーで耕運を続けていると耕盤ができてしまいます。天地返しで、耕盤を崩すことができます。

この作業はきつい仕事なので、冬に行うとよいでしょう。また、市民菜園を借りたら連作障害を避ける避ける対策としても考えてみましょう

(全国農業新聞

「菜園名人」より抜粋し掲載
H28年1月22日(金)

全国農業新聞

購読料：月額700円
年間購読：8,400円
発行：毎週金曜日